立命館大学経営学部校友会

ACROSS　速報版

2016 年 7 月 1 日　第 81 号

『観光は日本を真に豊かにするのか！？』

2016 年 6 月 25 日，立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームにおいて経営学部校友会 2016 年度総会が開催され，その後衣笠キャンパスをめぐるキャンパスツアーをはさみ，記念講演会が開かれました。

講師は京都市長　門川大作氏で，「観光は日本を真に豊かにするのか！？」と，題するお話でした。そのお話の概要です。楽しく，有意義なお話しでした。紙面で十分に伝え切れていないのが残念です。門川市長には講演会後の懇親会にもご参加頂きました。

【　講師　門川大作 京都市長　】

経歴　京都に立命館があってよかった！というのも，私は京都の堀川高校で自治会等で少々暴れておりました（笑）。大学進学に意義を感じず，受験勉強もせず，卒業後すぐ京都市役所につとめ，教育委員会に配属されました。そこでは目から鱗で，一人一人の子供を徹底的に大事にする！との信念で，多くの職員が命懸けとも言える努力をされている。私も連日深夜まで，「家にいるのが週 44 時間」しかないというくらい，仕事に熱中しました。そこで改めて勉強しないといけないと気づいて，立命館大学の夜間部に行きました。そして講義が終わったらすぐ役所に戻ってまた仕事をするという生活でした。今の私の原点です。感謝しています。

京都は観光都市ではない　京都は観光都市ではありません。同時に，極めて熱心に観光に取り組んでいます。といいますのは，京都の社寺にしても茶道，華道，香道，食文化にしても自然や景観にしても，別に観光のためにできたお寺，神社，料亭，景観ではありません。それが観光の視点で高く評価されているのです。京都の千年の人々とまちの営みが評価されているのです。京都市に観光課ができたのは昭和５年です。風致地区なども昭和５年に指定がはじまりました。世界恐慌の時に観光行政，景観行政がスタートしました。厳しいときに 100 年の計で，人々の熱意でスタートした取り組みが未来を明るくするのです。まさに，教育は人なり。同時に観光は人なり，です。未来のために努力したいです。

京都市の取り組み　世界の旅行雑誌の人気度で京都はかつてランク外でしたが，いまや常にベスト 10 入りです。前市長は世界一美しい町を作ろうと言って行動されましたが，その結果，今や京都は世界から町が清潔で美しいと評価されています。さらに京都は今，世界一安心安全な町にしようと取り組みをスタートさせ，犯罪が大幅に減少しています。地震・テロなどの対策，危機管理にも全力投球しています。

観光の問題点はなにか，例えば観光には繁忙期と閑散期があって，京都市では10年前3.6倍のお客数の差がありましたが，あらゆる対策を講じて今や1.4倍の差に縮小しました。9年前からの新たな景観政策で「適正外看板（屋上や赤色等派手な看板）」の撤去を求めました。2万7千の看板を撤去していただきました。適正看板が30%から今や90%超になり，まちは美しくなりました。人が移動するときの自動車での移動（自動車分担率）が28.3%から21.3%に減りました。他方バスや電車など公共交通機関利用は21.8%から28.4%に増えました。マイカーで来る人が減少しました。41.7%から6.3%に。「歩いて楽しいまち」が浸透。また四条通一車線化の効果もありました。放置自転車の台数が20分の1に減りました。地下鉄1日あたりのお客さんが増えました。地下鉄が赤字から黒字になりました。市バスも赤字から黒字に転換しました。有効求人倍率上昇しました。私が市長になったとき0.51倍でしたが，今は1.26倍になりました。

ただ市財政はというと，この8年で2664億円の税収から2521億円の税収へと減少しています。厳しい状況下，行財政改革を断行し，職員を3千人削減（8年間で約2割）し，財源を確保し，公約を実行しています。観光が税収（法人市民税）に占める割合は0.7%です。また深刻なのは伝統産業です。西陣織，京友禅，京漆器などなど厳しくなっています。文化を支える「ものづくり」が厳しいです。市内の製造業では7割が正規労働者です。ところが旅館ホテル，飲食などでは75%が非正規です。だから京都は非正規率が高いのです。サービス業の労働生産性を高める。そのために安定した職業にすることが重要です。保育園待機率は3年連続京都市はゼロです。就労支援へあらゆる努力をしています。しかし日本のサービス業の労働生産性が低く，家庭の年収が減少しています。伝統産業・文化と観光の連携，観光の更なる質の向上などその克服にも全力投球しております。

日本に京都があってよかった　若い人に大学で勉強し，「おもてなしのプロ」になりたいと思わせられないと観光立国はできません。文学や心理学，語学などを学んだ人が観光業（ホテル，料亭）に従事するようにならないといけません。どこでもできる産業だけに力を入れているだけではダメ。そこでしかできないことに視点をあてるべきです。

「日本に京都があってよかった」というキャッチコピーは平成１５年に京都市が「国家戦略としての京都創生」を国に訴えるための言葉です。ＪＲ東海さんの「そうだ京都、行こう。」と似ています。そして文化を市政の基盤にしました。その京都へ文化庁が来ることに決まりました。

京都は「ものづくり」と「ものがたりづくり」が融合して発展してきた町です。そして「人づくり」と「まちづくり」が融合してきました。また，様々な宗派が共存し千年を超えて寛容の精神が息づいている都市です。能装束を作り続けている人が西陣にいます。茶の湯を支える道具づくりの方々が活躍されています。京都の精神文化を支える職人がいます。「料理」は，ことわり（理）をはかる（料る）。季節の食材の組み合わせ，器，座敷，庭，掛け軸，所作，そして食べる人の健康，心，最もいい状態にするのが「料理」。よりよい料理のための，ものづくり，ものがたりづくりが，人づくりです。こんな町は世界にありませんね。

千年を超えた町は世界でも稀有です。何故か？都を作ったとき，「平安」，つまり平和，安寧，安心，がコンセプトでした。これが千年続くコンセプトです。京都は城壁のない歴史都市です。こんな都も世界に稀有で，千年前から世界に開かれた町です。

（　講演会資料より　）

人口減少社会への挑戦　今，我が国は人口減少のきびしい現実がありますが，京都市は5年前から転出から転入へと人口が増えています。住みたい町，子育てしたい町，大学で学びたい町，働きたい町という取り組みが大事です。景観条例で，建物の規制強化を行いました。人口減少を心配されましたが都市格を高め，それが人口増加につながっています。そして人口動態は転入超過に。昨年は，5年前と比較して転出3600から転入3250へと人口減に歯止めがかかりました。
「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」という取り組みを推進しています。人口減少を「ひとごと」「役所ごと」としないで，「みんなごと」のまちづくりをしようと考え，市民参加の下に行動しています。京都創生・お宝バンクとしてアイデア・提案が出されたらホームページにアップしています。それに応えて応援したいとの提案も出てコラボします。現在196件にものぼり，実行もできています。住めば都ではなく，住むなら都です。各地域ごとに我が町創生プロジェクトを推進しています。

文化庁全面移転決定　昭和53年10月，世界文化自由都市宣言をしました。京都は独自の文化をもっています。同時に新たな文化を世界と創造します。その延長に文化庁移転決定があります。明倫小学校の跡地の市芸術センター等で7月から社会実験もはじまります。文化庁が京都へ来たら，二条城も芸術センターも大学も，まち全体に文化庁のサテライト機能を持たせたいです。日本の文化のすばらしさは衣食住，生活文化，コミュニティです。京都に伝わる日本の心，文化です。
　文化庁の機能強化，文化行政の幅を広げることが大事です。文化を視点にあらゆる政策に横串をさす。文化共国を目指すことが重要です。まちづくり国づくりは，これからは文化が一番大切です。文化で経済の活性化，人々の幸せを実現。フランスはそれで活性化しました。日本こそそれができるはずです。京都は文化の宝庫です。

　観光の「観」は，人生「観」，世界「観」です。観光政策は都市政策の総和です。深みのある観光政策が重要で191の施策を展開しています。観光の経済効果を市民生活の向上につなげたい。市民の安定的な雇用・所得の向上へつなげます。観光施策で好循環を生み出したい。そして数だけを求めない，質を高めて数を増やします。シーズンオフ対策として，東山や嵐山での花灯路や「京の七夕」を実施。フォーリンフレンドリータクシー，つまり英語等が話せる運転手を認定し，専用タクシー乗り場をつくりました。受入環境整備の推進施策例として，他にも24時間多言語コールセンターも設けました。免税店も拡大しました。119番通報の多言語通訳体制も作りました。119番での現場到達までの時間は全国平均8分30秒ですが，京都市は6分35秒です。2分の差が命を守ります。旅館やホテルをはじめとする安心・安全で多様な宿泊環境の充実を行っています。それでも不足しています。民泊が増え3200件になっています。実態調査をし，「旅行者と周辺住民の安全が第一」の方針で，法令により対処しています。正規のホテル旅館でもこの間増え7万人泊まれます。それでもまだまだ足りない。

良質な宿泊施設の拡充に全力を尽くしています。同時に持続可能な観光が必要です。数だけを求めてはだめです。

新たな魅力の創出　新景観政策の推進を行っています。先ず景観法を国で作ってもらいました。そしてそれを根拠に高さやデザインの大胆な制限もしました。「眺望景観」をよくしようとしています。日本で初めてです。さらに現在61エリアで規制を強化しようとしています。「重要建造物」として町家等を1000件指定を目指し候補調査しています。京都市立芸術大学を京都駅近くに移転して，活力ある京都を創造します。

水族館に続き鉄道博物館もでき，丹波口に七条駅ができる，岡崎公園には，ロームシアター京都，等々個性と活力あふれるまちづくりをしています。世界一安心安全・やさしさあふれるおもてなしのまちづくりをしています。確実に実行しています。犯罪も減りました。熊本や東日本の被災地に多くの職員を送りました。現地でお役に立つ，同時に京都の安心安全のためにもなります。ロックフェラー財団100のレジデントシティに挑戦し高く評価され，10倍の競争で選定されました。世界最高水準の危機管理を目指します。

新たな魅力の創出に努めています。レストランウインタースペシャルをオフシーズンの2月に実施。また　温泉を掘ります。京都マラソンも2月にしました。京都の魅力の創造です。京都にふさわしいMICE［企業等の会議（Meeting），企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel），国際機関・団体，学会等が行う国際会議（Convention），展示会・見本市，イベント（Exhibition/Event）の頭文字］の誘致を強化しました。皇室のどなたかに京都御所にお住まいいただき，京都と東京が双方で都の役割を果たす「双京構想」，オール京都で進めたいです。観光は連携が重要です。しかし，これらの実現にはみんなが自己変革しないと実現しません。他人と過去は変えられないが自分と未来は変えられる。そして私の夢は「世界に日本があってよかった！そうだ、日本へ行こう！」

（松村）

【立命館大学経営学部校友会】
〒567-8570　大阪府茨木市岩倉町2-150
TEL:072-665-2090　FAX072-665-2099
E-mail: info@ritsba-kouyukai.jp